

〔『法学新報』第31巻2(350)号 大正10年2月1日〕

○国家試験登第者謝恩会 大正九年度挙行の高等文官、判事檢事並に弁護士試験合格者にして中央大学出身者は無慮九十有余名の多数に上りて寔に他に誇るに足る旧臘二十四日午後五時より本郷燕楽軒に於て理事者及び関係講師を招待して謝恩会を開催したりしか当夜会する者来賓側に於ては馬場(愿)理事、横田林両講師及び佐藤幹事、天野教務主任等にして合格者側は井上敏、及川憲一郎、安慶名徳潤、山本嘉助、舍川軍藏、小國修平、國島貞一、繁本國武、三野頼次、正岡正延、丸山田作、瀧澤茂雄、高橋隆二、佐竹晴記、武井辰磨、卷一郎、高橋己之助、福永榮、近藤三郎、森山邦雄、佐藤誠一、中川精市、小野實雄、徳見三吉、金秉愚、前野順一、松岡一衛、菊地政、杉浦平八、森原武男、高橋静一、小脇芳一、千葉長、加島榮次郎、小出巧、野口美實、江川六兵衛、大塚武、森時宜の諸氏三十九名なりき定刻席定まりて宴に移り進て「デザートコース」に入るや繁本氏合格者を代表して開会の趣意を述べ謝恩の意を効したるに對し馬場理事之に應ふる所あり且本学今次の名誉を将来に永く維持すへき旨の希望を陳へられ次で横田講師は謝辞に合せて本学の他に冠絶して連年国家試験に好果を得る所以は畢竟するに学風の質実剛健なるに加へて学生の勉強なるに職由する旨称揚す

る所あり兼て登第者諸氏の将来を諄諄として訓諭せらる次に林講師亦起て司法界の實情を語り畢竟奮勵努力は成功の母なる旨を警告せられたり茲に於て登第者中より森原氏起て謝恩の意を表し卷氏は感想を告げ終て師弟各自総て胸襟を開きて何等の隔壁なく快談し靄靄たる和氣真に掬すへきものあり少時にして宴を撤して別席に移り曩に予告ありたる岡野学長馬場(鏝)理事の来会を待ちたるも已むを得ざる所用の爲め遂に其温容に接することを得さりしは誠に遺憾の極なりき而も尚ほ欲談尽きす更の過くるを知らず漸くにして其散会したるは行人街路に絶ち大都會も正に睡に就かんとする頃なりき(森生投)